

第2章

高齢者等の状況

第2章 高齢者等の状況

第1節 高齢者を取り巻く現状

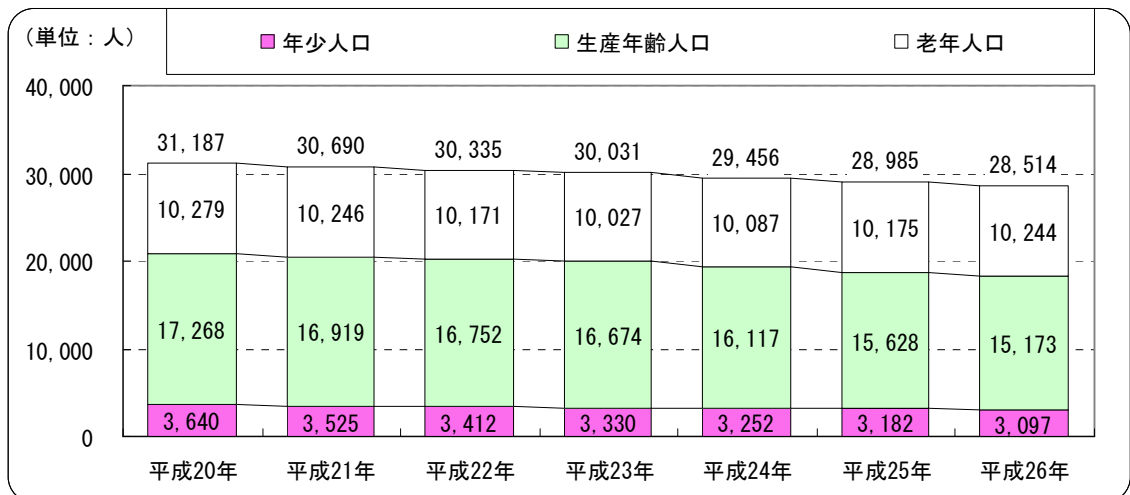
(1) 人口の推移

総人口は年々減少し続けており、平成23年9月30日現在の総人口は30,031人となっています。また、推計人口でも減少傾向は続き、平成26年では、28,514人となり、平成23年と比べ1,517人減少すると予測されます。

年齢三区分別人口推移をみると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は減少傾向にあり、老年人口（65歳以上）は平成23年までは、減少傾向で推移していましたが、団塊の世代が65歳以上となることもあり、平成24年より増加に転じます。

また、年齢三区分別人口割合をみると、年少人口割合、生産年齢人口割合は減少傾向にありますが、老年人口割合は増加傾向にあることから、少子高齢化が進行し続けています。

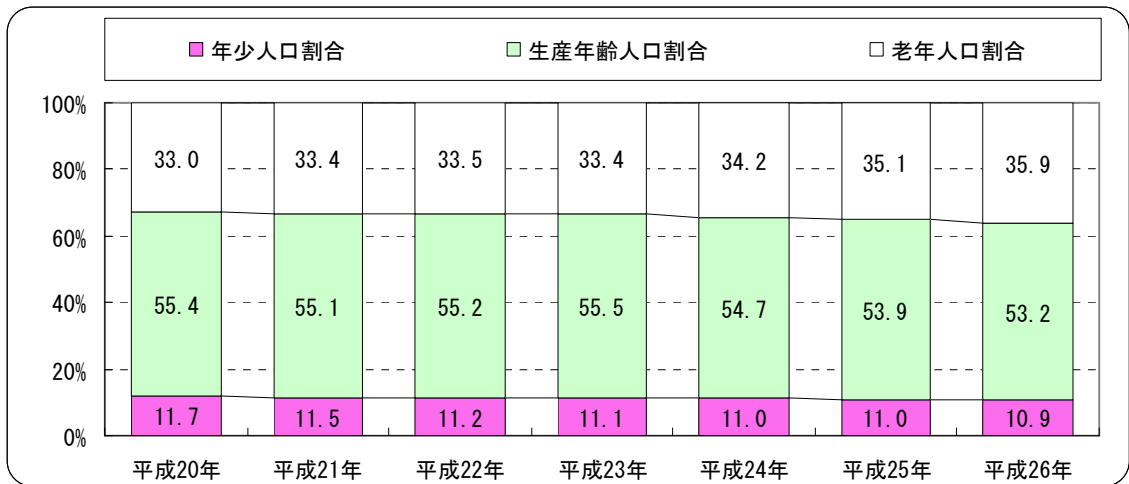
■年齢三区分別人口推移



資料：平成20年から平成23年は実績人口、住民基本台帳（各年9月30日現在）

資料：平成24年から平成26年はコーホート変化率法による推計人口

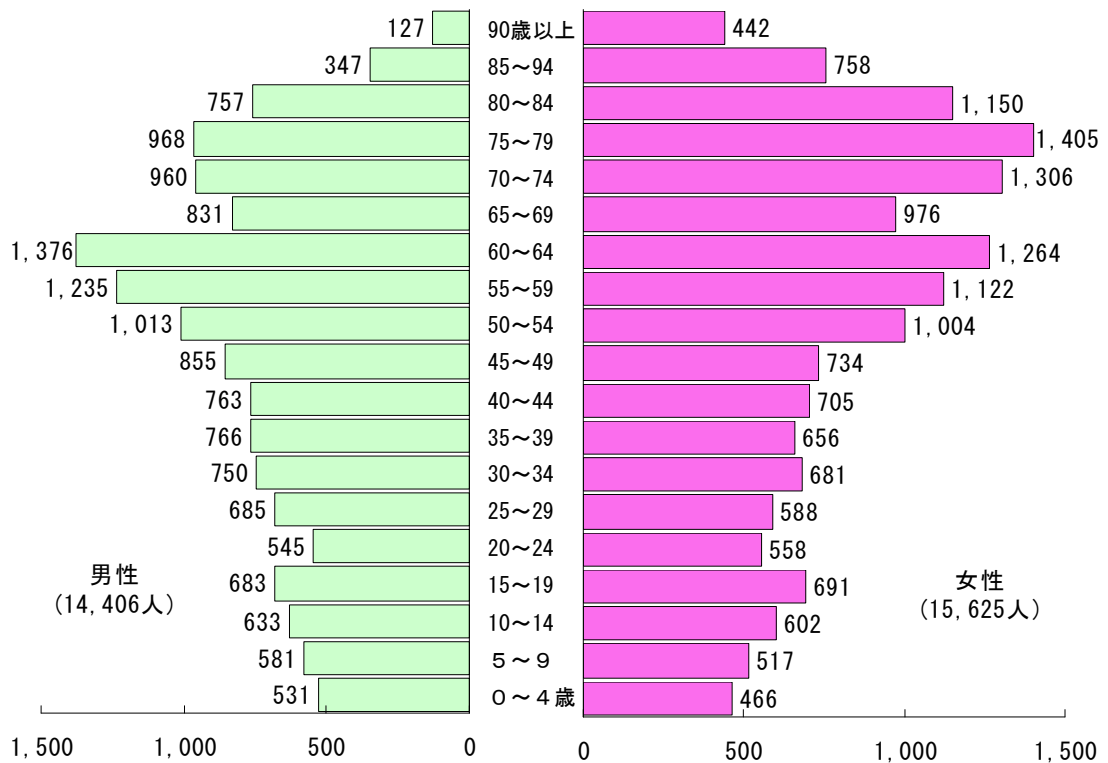
■年齢三区分別人口推移の構成割合



(2) 人口構成

平成23年9月30日現在の人口構成を、人口ピラミッドで見ると、出生数の減少と高齢化が反映された「つぼ型」となっています。また、団塊の世代が中高年に差し掛かり、今後の高齢者人口の増加がうかがえます。

■平成23年の人口ピラミッド



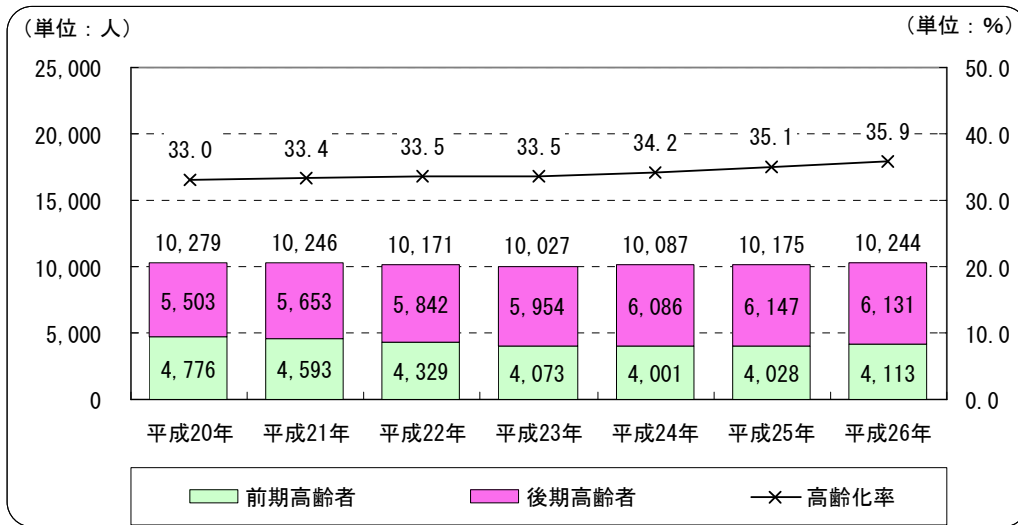
資料：住民基本台帳（平成23年9月30日現在）

(3) 高齢者人口の推移

高齢者人口の推移をみると平成22年に10,171人であったものが、平成26年には10,244人となり、僅か73人の増加ですが、高齢化率は35.9%と大幅な増加が予測されます。

また、65歳以上の高齢者を前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（75歳以上）に分けてその比率をみると、後期高齢者の割合が高くなっていますが、平成25年より前期高齢者の増加が予測されます。

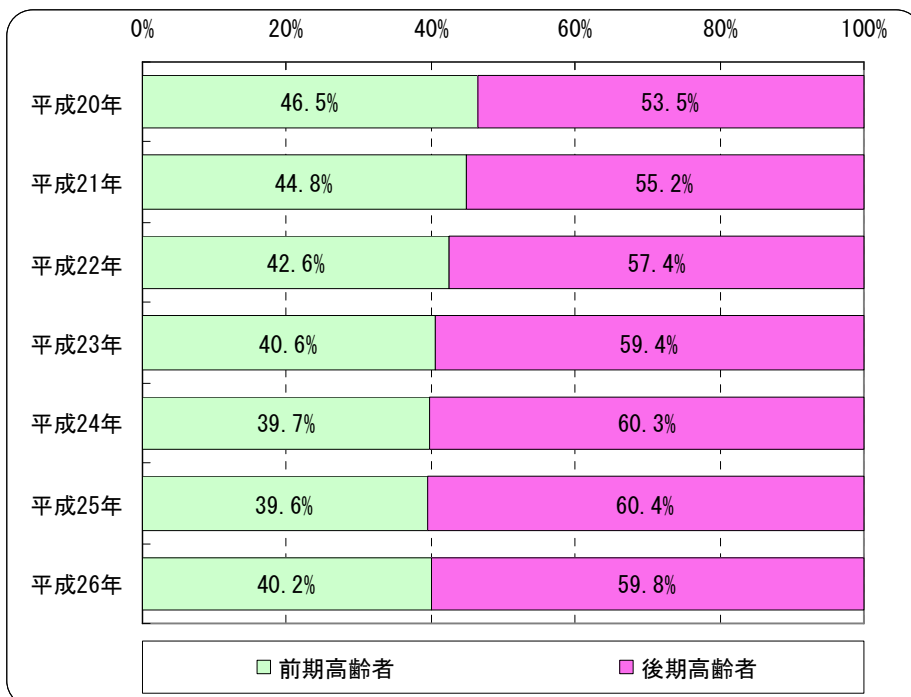
■ 高齢者人口の推移



資料：平成20年から平成23年は実績人口、住民基本台帳（各年9月30日現在）

資料：平成24年から平成26年はコーホート変化率法による推計人口

■ 前期高齢者・後期高齢者の比率



(4) 高齢者のいる世帯の状況

人口は減少傾向で推移している中で、世帯数も減少傾向で推移し、平成12年に10,331世帯でしたが、平成22年には9,866世帯となっています。

また、高齢者世帯数の推移は、平成12年に6,028世帯でしたが平成22年には6,417世帯と増加傾向で推移しています。高齢者世帯の増加に伴い、総世帯数に占める高齢者がいる世帯数の割合も、平成12年に58.3%でしたが、平成22年には65.0%と増加しています。

さらに、高齢者単身世帯、高齢夫婦世帯等といった、高齢者のみで構成される世帯についても増加傾向となっています。

■ 高齢者のいる世帯の推移

(単位：世帯、%)

		世帯数	構成比率	一般世帯数
平成12年	65歳以上の親族のいる一般世帯	6,028	58.3	10,331
	高齢者単身世帯	861	8.3	
	高齢夫婦世帯等	1,088	10.5	
平成17年	65歳以上の親族のいる一般世帯	6,470	63.9	10,122
	高齢者単身世帯	1,051	10.4	
	高齢夫婦世帯等	1,227	12.1	
平成22年	65歳以上の親族のいる一般世帯	6,417	65.0	9,866
	高齢者単身世帯	1,238	12.5	
	高齢夫婦世帯等	1,212	12.3	

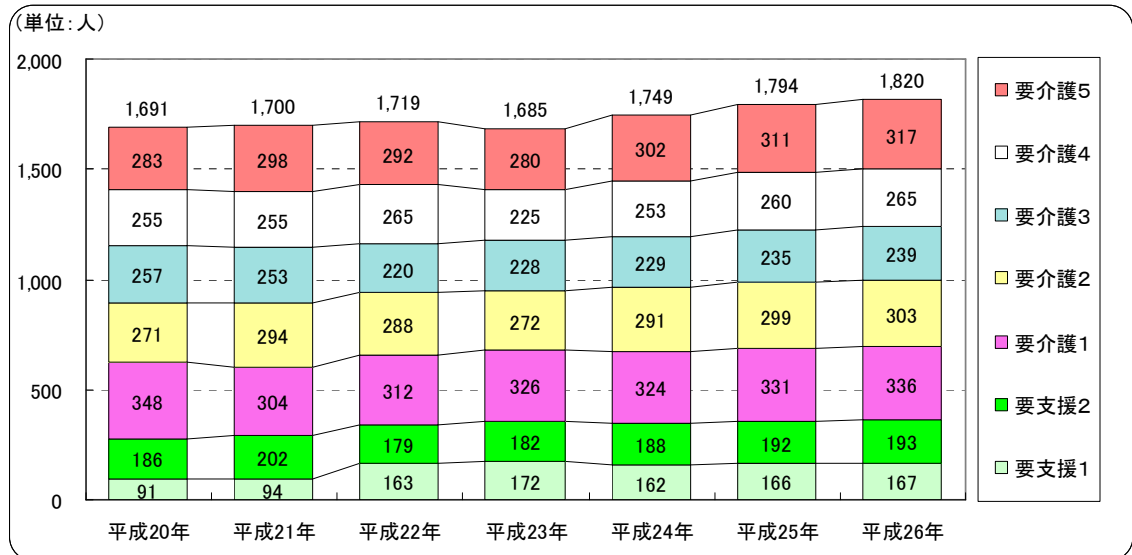
資料：国勢調査

(5) 要介護等認定者数の推移

要介護等認定者数は、増加傾向で推移し、平成26年の要介護等認定者数は1,820人と予測されます。

要介護別割合は大きく変化しませんが、認定率は、上昇し続け、平成26年には17.8%と予測されます。

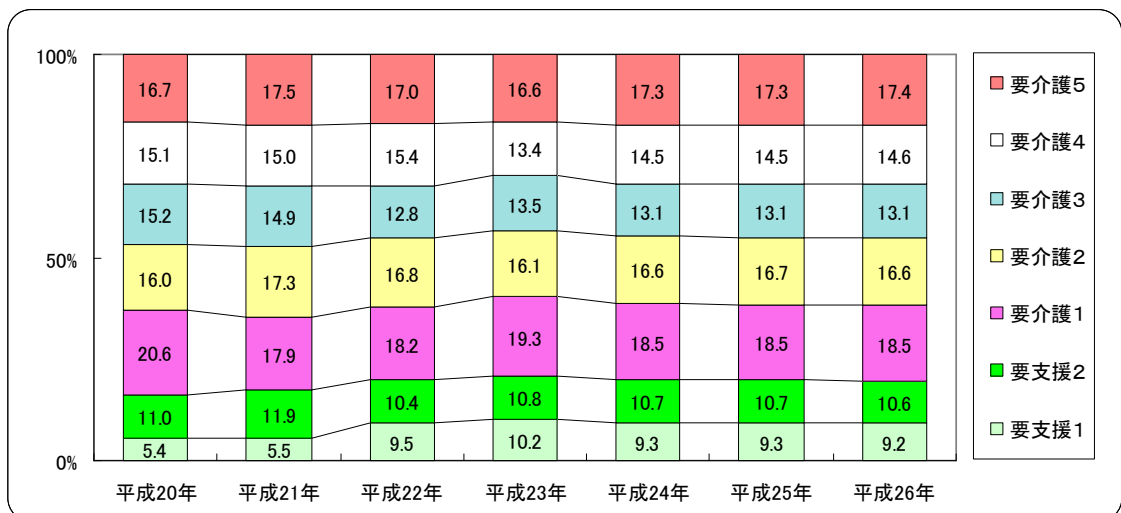
■ 要介護等認定者数の推移



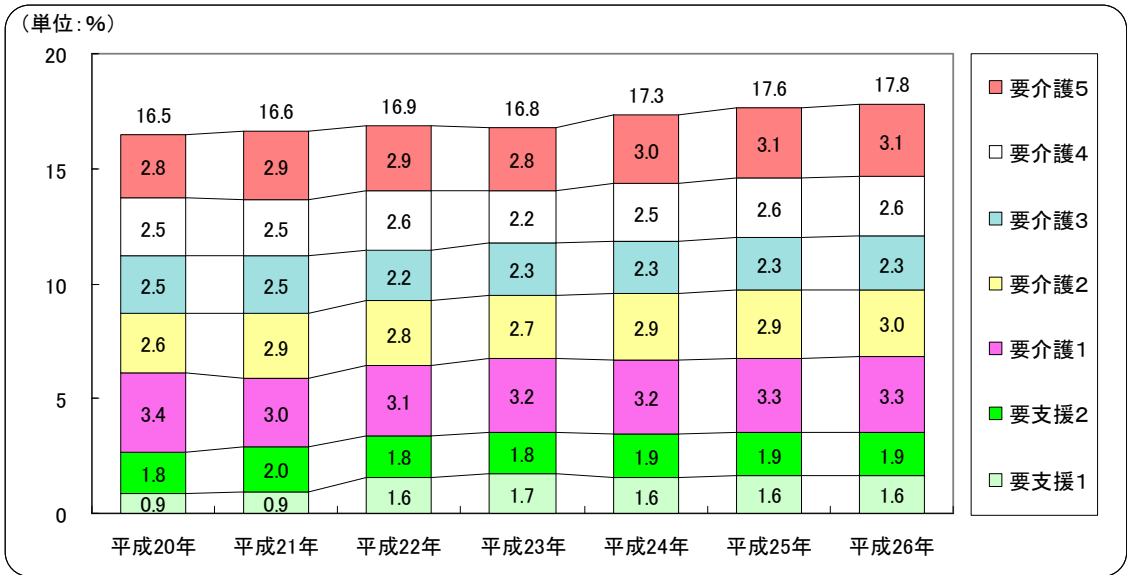
資料：平成20年から平成23年は、介護保険事業状況報告（各年9月30日現在）

資料：平成24年から平成26年は、第5期介護保険事業計画見込み量シート

■ 要介護等認定者数の要介護別割合の推移



■認定率の推移



第2節 アンケート調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

高齢者の介護保険施策等に関する意識と日常生活実態や健康状態や要介護リスク等を把握することにより、第五次高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画策定の基礎資料とするとともに計画に反映するため実施しました。

②調査の対象

65歳以上の高齢者を調査の対象とし、その中から、年齢、男女比、要介護度などを考慮した上で、1,401人（うち要支援・要介護認定者701人）を無作為に抽出しました。

③調査の方法

郵送配布、郵送回収

④調査時期

平成23年3月

⑤回収率

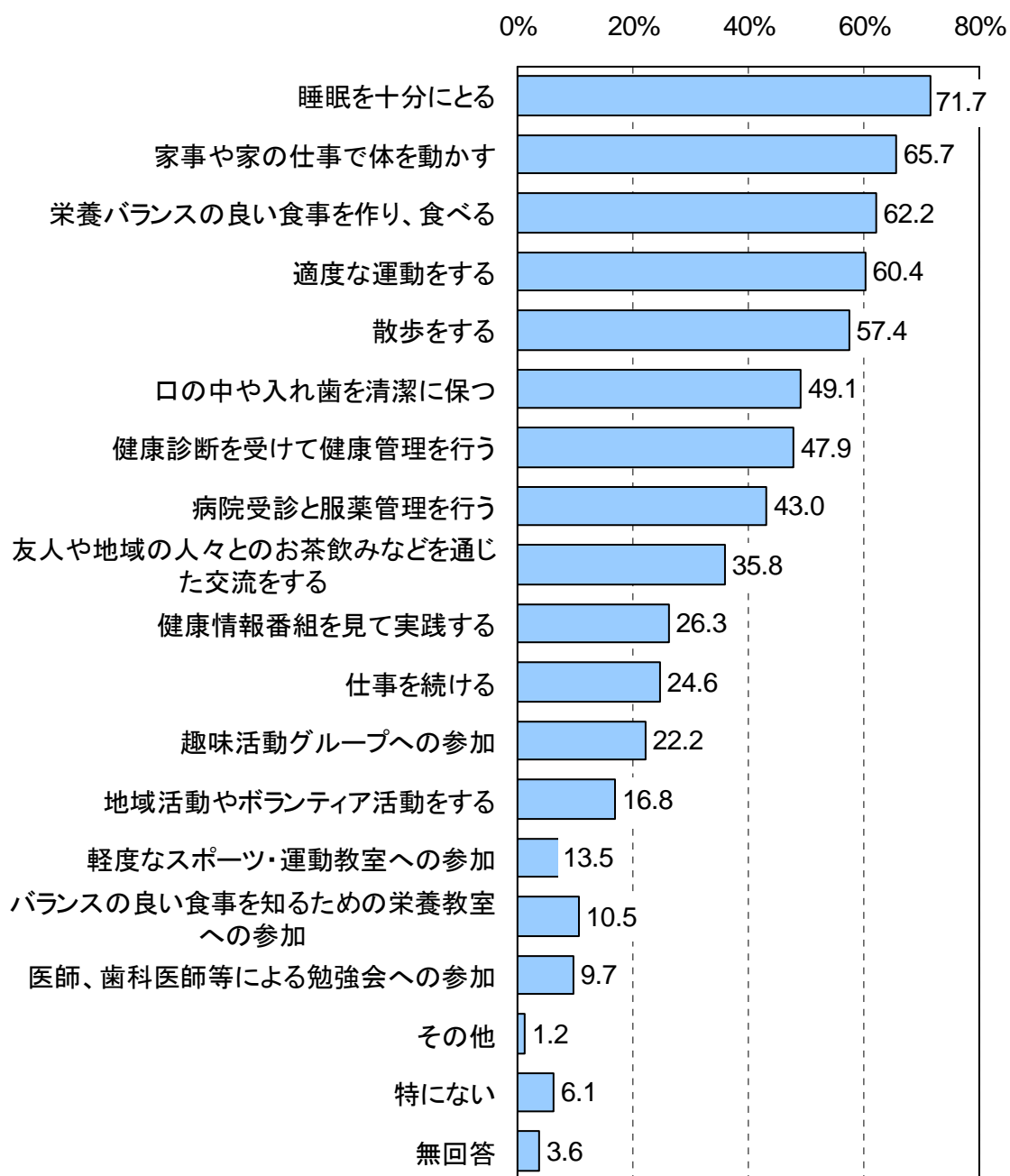
区分	配布数	回収数	回収率
高齢者実態調査	700件	505件	72.1%
介護保険ニーズ調査	701件	495件	70.6%

(2) 高齢者実態調査の主な調査結果（抜粋）

①健康を維持するために取り組みたいこと

高齢者が健康を維持するために取り組みたいことは、「睡眠を十分にとる」（71.7%）、「家事や家の仕事で体を動かす」（65.7%）、「栄養バランスの良い食事を作り、食べる」（62.2%）の順に多くなっています。

■健康を維持するために取り組みたいこと

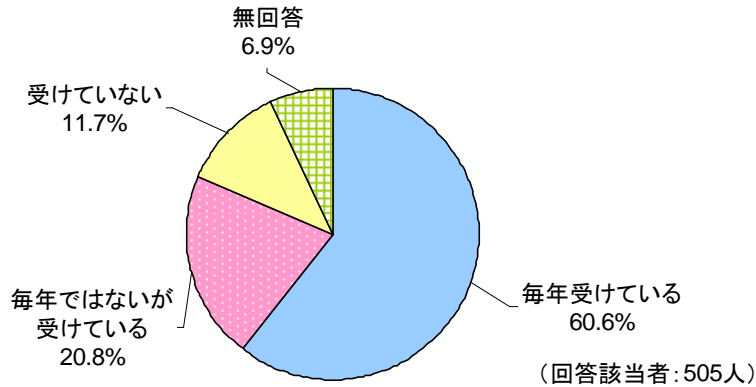


(回答該当者: 443人 複数回答)

②健康診断の受診状況

健康診断の受診状況は、「毎年受けている」が60.6%、「毎年ではないが受けている」が20.8%となっています。一方、「受けていない」は11.7%となっています。

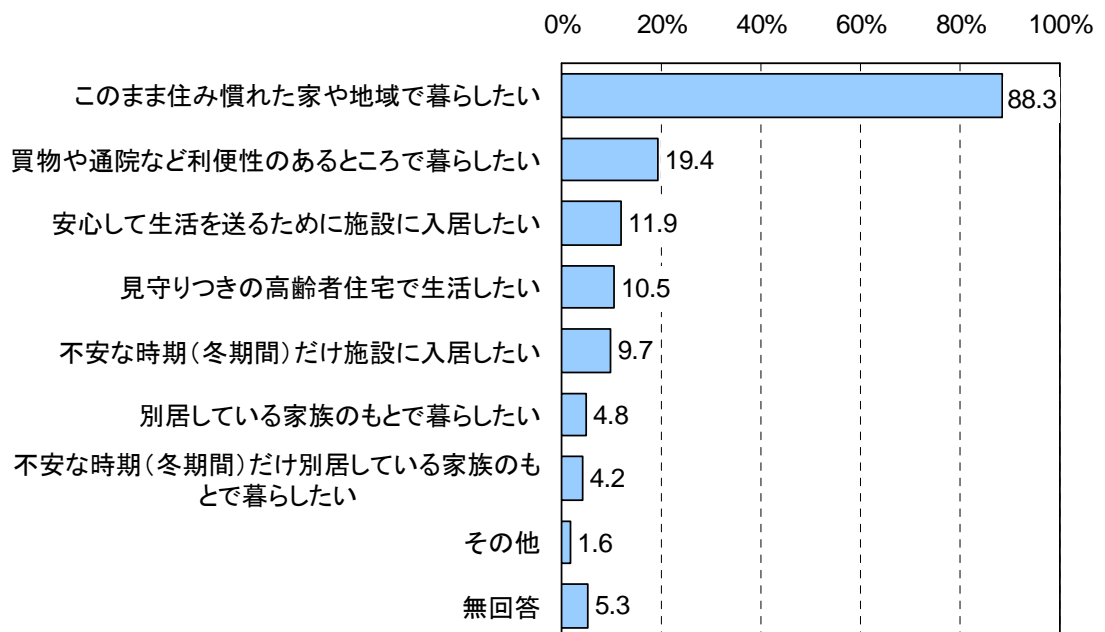
■健康診断の受診状況



③高齢者のみの世帯になった場合の希望の暮らし方

高齢者のみの世帯になった場合の希望の暮らし方は、「このまま住み慣れた家や地域で暮らしたい」が88.3%と圧倒的に多くなっています。

■高齢者のみの世帯になった場合の希望の暮らし方

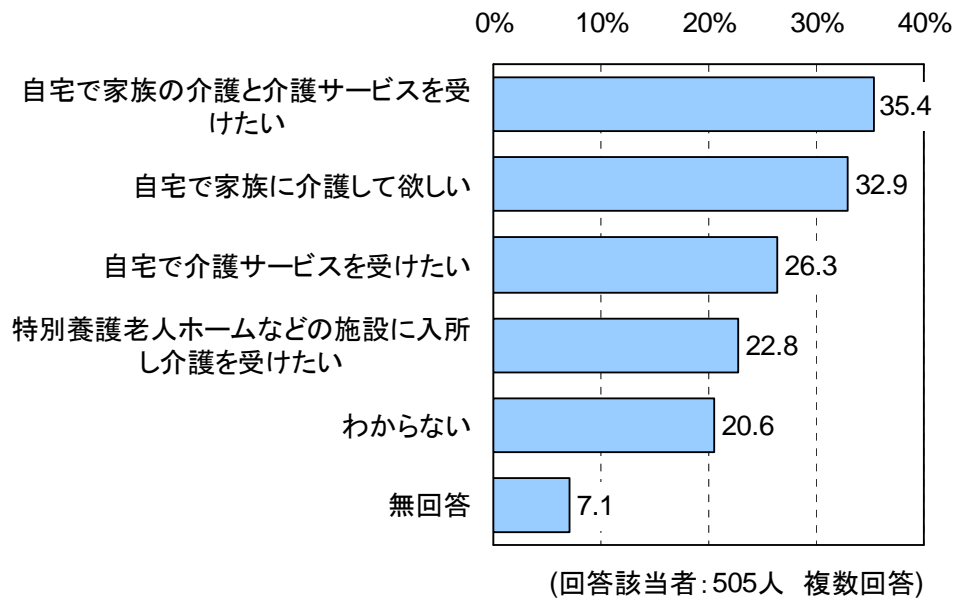


(回答該当者:505人 複数回答)

④将来の介護について

将来の介護についての考えは、「自宅で家族の介護と介護サービスを受けたい」(35.4%)、「自宅で家族に介護して欲しい」(32.9%)が3割を超え多くなっています。

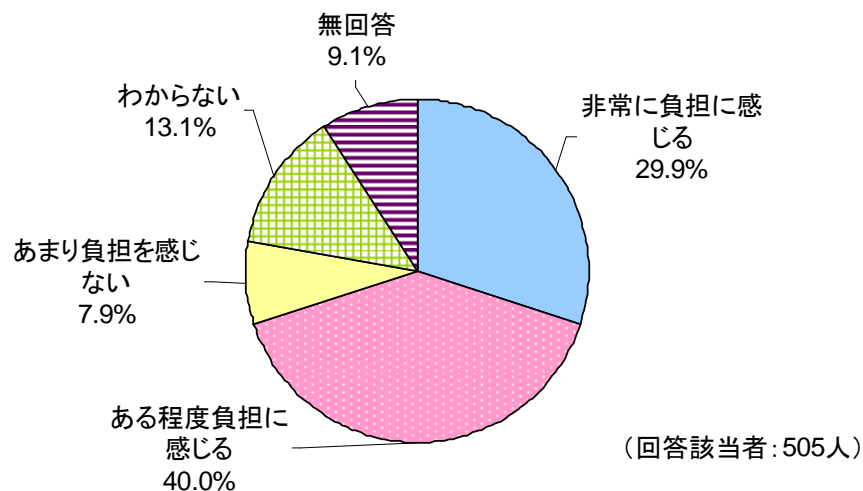
■将来の介護について



⑤介護保険料の負担感

介護保険料の負担感は、「非常に負担に感じる」、「ある程度負担に感じる」を合わせると69.9%となっています。

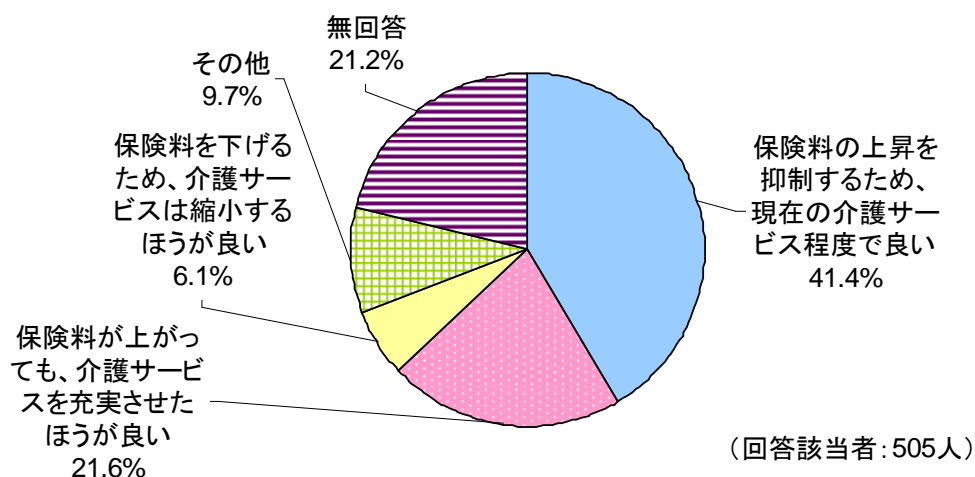
■介護保険料の負担感



⑥介護保険料と介護サービスのバランスについて

介護保険料と介護サービスについては、「保険料の上昇を抑制するため、現在の介護サービス程度で良い」（41.4%）が最も多くなっています。

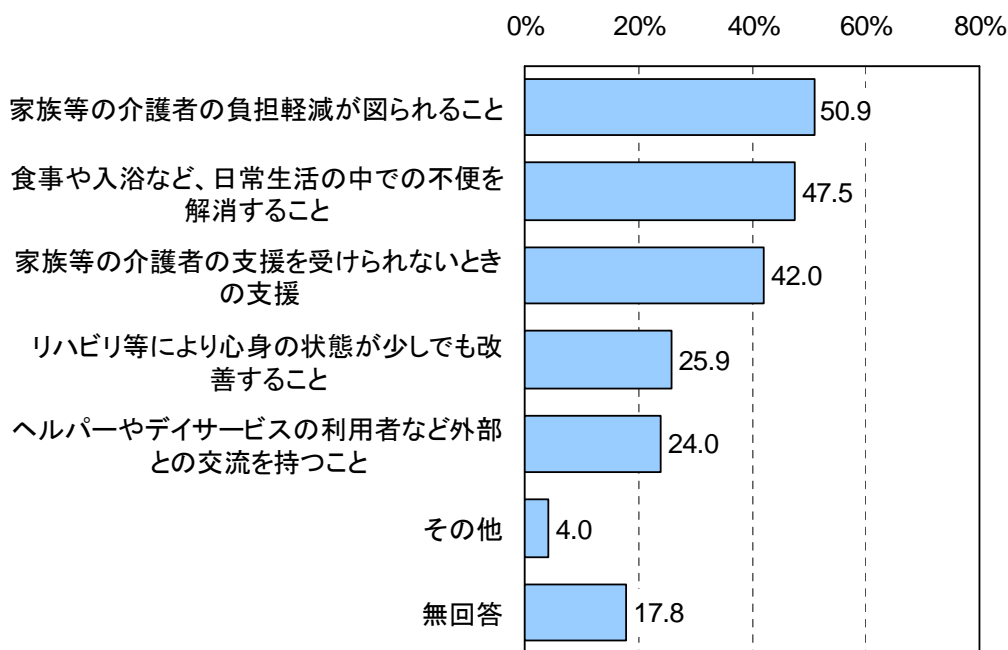
■介護保険料と介護サービスのバランスについて



⑦介護サービスに求めること

介護サービスに求めることは、「家族等の介護者の負担軽減が図られること」（50.9%）が最も多く、次いで「食事や入浴など、日常生活の中での不便を解消すること」（47.5%）、「家族等の介護者の支援を受けられないときの支援」（42.0%）の順となっています。

■介護サービスに求めること

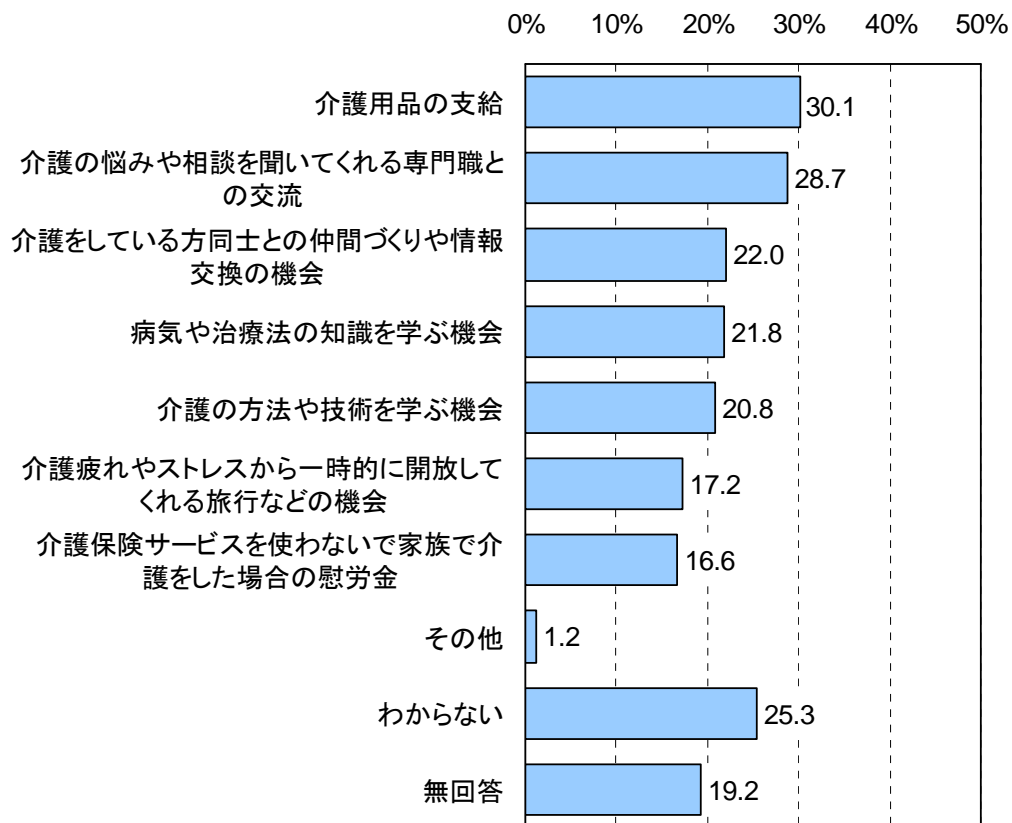


(回答該当者: 505人 複数回答)

⑧介護サービス以外に望む支援

介護サービス以外に望む支援は、「介護用品の支給」(30.1%)が最も多く、次いで「介護の悩みや相談を聞いてくれる専門職との交流」(28.7%)、「介護をしている方同士との仲間づくりや情報交換の機会」(22.0%)の順となっています。

■介護サービス以外に望む支援



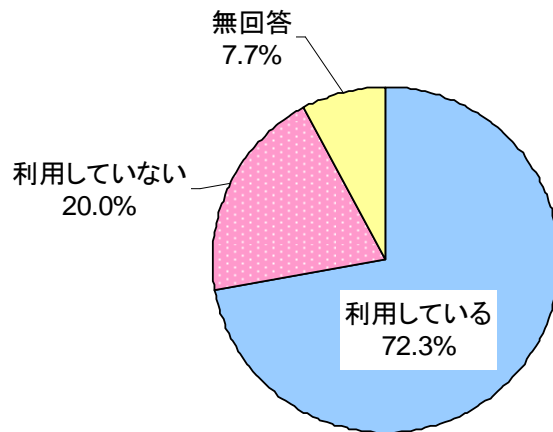
(回答該当者: 505人 複数回答)

(3) 介護保険ニーズ調査の主な調査結果（抜粋）

①介護（予防）サービスの利用状況

介護（予防）サービスを利用している認定者は72.3%、未利用者は20.0%となっています。

■介護（予防）サービスの利用状況

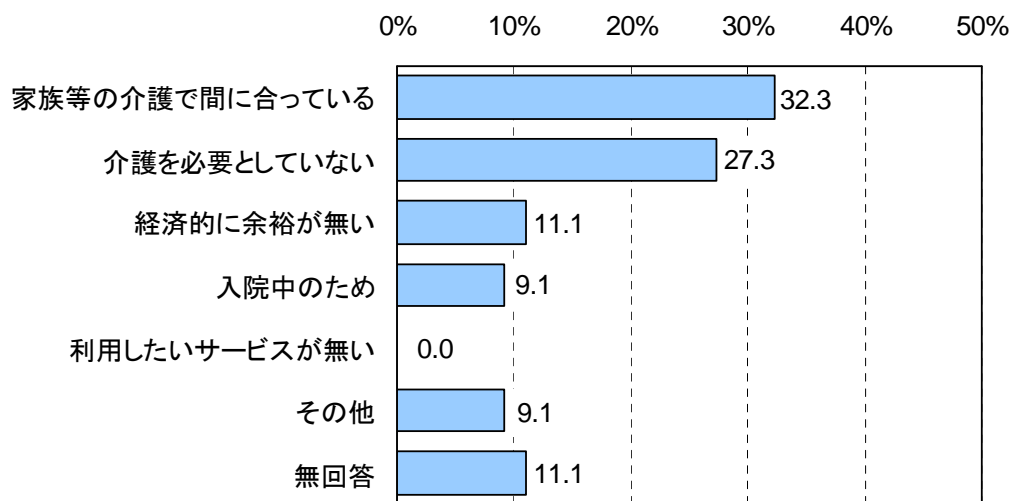


(回答該当者: 495人)

②介護（予防）サービスを利用していない理由

介護（予防）サービスを利用していない理由は、「家族等の介護で間に合っている」が32.3%、「介護を必要としていない」(27.3%)となっています。

■介護（予防）サービスを利用していない理由

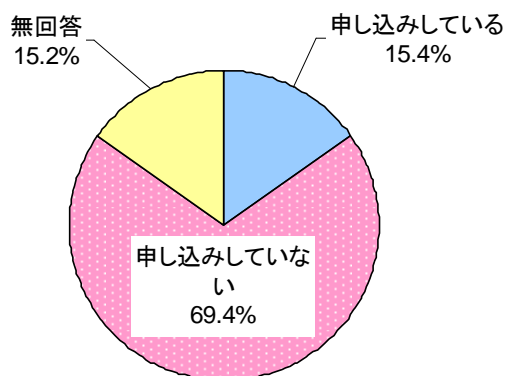


(回答該当者: 99人 複数回答)

③施設入所の申し込みの有無

施設入所の申し込みをしている認定者は、15.4%となっています。

■施設入所の申し込みの有無

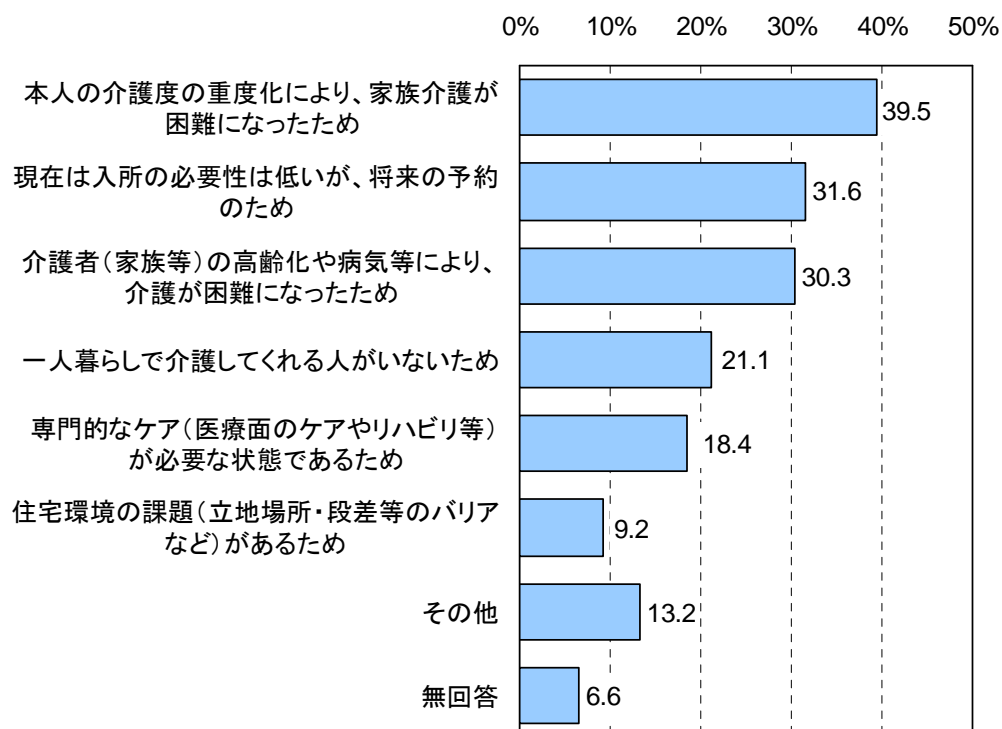


(回答該当者: 495人)

④入所申し込み理由

施設入所申し込みした理由は、「本人の介護度の重度化により、家族介護が困難になったため」(39.5%)、「現在は入所の必要性は低い、将来の予約のため」(31.6%)、「介護者(家族等)の高齢化や病気等により、介護が困難になったため」(30.3%)が3割を超えて多くなっています。

■入所申し込み理由

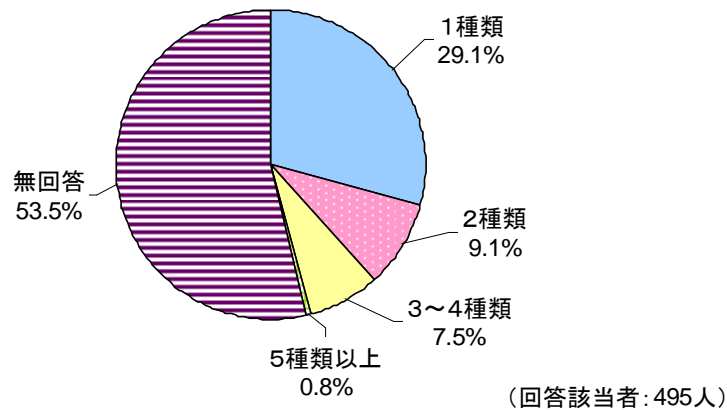


(回答該当者: 76人 複数回答)

⑤現在、利用している介護サービスの種類

現在、利用している介護サービスの種類は、「1種類」（29.1%）が最も多くなっています。

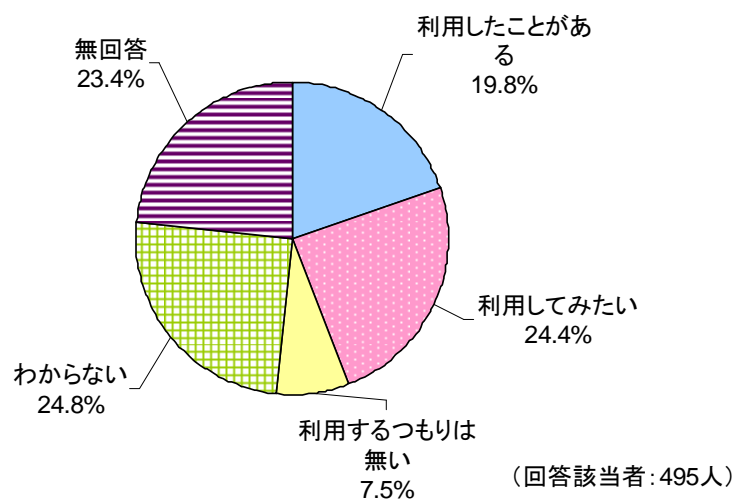
■現在、利用している介護サービスの種類



⑥居宅サービスの充実策への利用状況・意向

居宅サービスの充実策への利用状況・意向をみると、「利用してみたい」(24.5%)が最も多く、次いで「利用したことがある」(19.8%)と利用意向が大きい状況です。

■居宅サービスの充実策（市町村特別給付）への利用状況・意向

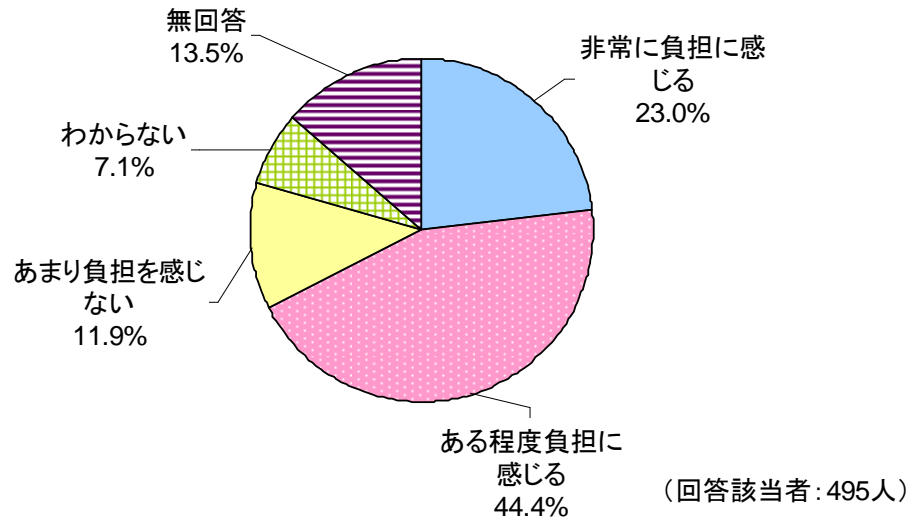


※遠野市では、居宅サービスの充実策として、「住宅改修費の給付額の上乗せ」、「福祉用具購入費の対象品目の追加」を行っています。

⑦介護保険料の負担感

介護保険料の負担感は、「非常に負担に感じる」、「ある程度負担に感じる」を合わせると67.4%となっています。

■介護保険料の負担感



⑧介護保険料と介護サービスのバランスについて

介護保険料と介護サービスについては、「保険料の上昇を抑制するため、現在の介護サービス程度でよい」(49.5%)が最も多くなっています。

■介護保険料と介護サービスのバランスについて

